
福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

横浜市向台保育園

添付書類

- ①評価結果総括表
- ②評価結果についての講評
- ③評価結果
- ④保育観察
- ⑤利用者家族アンケート結果
- ⑥利用者家族アンケート結果(グラフ表示)
- ⑦評価結果まとめ

平成 30 年 1 月 30 日

公益社団法人 けいしん神奈川

評価結果についての講評

施設の特徴

横浜市向台保育園は昭和40年7月に開所し、平成24年には耐震リフレッシュ工事により、リニューアルが完了しています。最寄りの相鉄線の駅からはバスによる利用となりますが、市内で唯一の渓谷と呼ばれる「陣ヶ下溪谷公園」に隣接し、近くには緑地や多くの公園もあり、自然や四季を身近に感じられる豊かな環境にあります。

園舎は平屋建て、園庭と固定遊具を備え、栽培が楽しめる小型の菜園もあります。定員は69名で1歳児から5歳児が在籍し、延長保育・障害児保育も行っています。

園の保育理念は「自然との関わりを大切にしながら思いっきり遊び、自分も友だちも大切に認め合える力を育てます」を掲げ「自然大好き 自分大好き 友だち大好き 一緒に遊ぼう」を園目標としています。これらを可視化した「リンゴの木」の図にまとめ、色々な場面で理解を深めることに役立っています。子どもたちと職員は小型園の特徴を活かし、家庭的な雰囲気大切にしながら保育を続けています。

特に優れていると思われる点

1. すべての子どもや保護者と一緒にふれあい、皆で育ちあう保育を行っています。

保育園は少人数の小型園の性質から、職員はどのクラスの子どもたちとも関わりを持ち、それぞれの子どもの特徴を把握していることから、興味や関心を持ったことに対して、適切な援助を行うことができます。毎月の誕生会やお芋パーティーの会食など、「1歳児から5歳児の全園児が集まり」皆で楽しみながら過ごす機会を多く持っています。子どもたちは、担任でない職員にも自分を表現できる信頼感を持ち、子ども同士はお互いの保育室をのぞき、様子を見たり、声をかけたりして、自然にふれあっています。園全体で子どもたちを見守り、手作りの保育を大切にした取り組みを行っています。

入園時には「新入児個人票」により面談を行い、スムーズな受け入れができるようにしています。乳児の個人ノート（連絡帳）に常につけている「ゴムバンドやクリップ」には名前や個人マークをつけ個人情報保護にも工夫と配慮をしています。幼児の保護者とは「健康カード」を通して日々の送り迎えでの情報交換や、伝えたいことがあったときに「メール便（連絡メモ）」を使い意見交換ができるようにしています。保育参加や園行事などと共に保護者との密接な関係づくりに努めています。

2. 恵まれた自然環境を活かし、園外活動や動植物の飼育・栽培などを積極的に行うとともに食育に力を注いでいます。

保育理念の、自然との関わりを大切に思いっきり遊ぶことを実践しています。周囲に自然が多くあり、散歩などで集めた自然物で遊び、どんぐりや落ち葉などでの製作も楽しんでいます。園内でいろいろな虫を観察したり、図鑑と見比べたりできるようにしています。チューリップ・ヒヤシンス・ホウセンカ・朝顔などを育て、花が咲くのを楽しみにしています。夏には、子どもたちは、朝顔を使った色水遊びや、種取りを楽しむことができます。また、藤棚の藤や、フェンスのモッコウバラは毎年咲き、匂いをかいだり、花や実で遊んだりしています。

春は近隣の公園へ行き、桜の花を見たり、たんぽぽやつくしなどの野花を摘んだりしています。夏は、陣ヶ下溪谷公園で、沢遊びを楽しんだり、西谷浄水場のプールに出かけたり、夏ならではの遊びを楽しんでいます。秋は公園の中を散歩したり、落葉や木の実拾いなども行ったりして、四季の自然を楽しんでいます。冬は、雪の上を歩く経験をし、雪だるま作りをしています。幼児の遠足では、旭区の「くぬぎやと公園」まで徒歩で往復し、自然豊かな公園で思いっきり体を動かして遊んでいます。

毎年、子どもたちの希望を聞き、じゃがいも・ラディッシュ・オクラ・枝豆・きゅうり・トマト・ピーマン・大根・さつまいもなどの種まきや苗植えをしています。子どもたちは水やりや草むしりなどの世話をしながら、成長を楽しみにしています。収穫した野菜は、園で調理をし、給食でも食べることを大切にしています。収穫したものを、自分たちで洗ったり、種を取ったり、切る様子や焼く様子を見て、匂いを感じたりしています。目の前で調理をすることで、より一層喜んで食べています。収穫した野菜を、家庭に持ち帰り親子で味わったクラスもあります。行事食として、献立にはないお月見用の「団子づくり」を4歳5歳児が行い、畑で収穫したさつまいもの「お芋ご飯」を作り、季節を身近に感じるよう工夫しています。自分のケーキに粉糖をかけたり、クラッカーサンドを作ったり、子ども自身ができることを行い、楽しんで食べることができるようにしています。

3. 異年齢保育を通して、子ども同士の成長をうながし、主体的な行動につなげています。

小型園ならではの良さを活かした異年齢保育の計画を作成し実践しています。3歳4歳5歳児の幼児3クラスは、1つのフロアをスライディングで分けた2部屋で生活しています。1年間の3クラスの組み合わせを、「年度の初めは3歳児が1部屋、夏期には3クラスが合同で、年度の後半は5歳児が1部屋」で過ごすような工夫をして、異年齢交流の環境を整えています。

幼児は「3人組の仲良しグループ」を作り、夏の合同生活では、夏の遊びを思い切り楽しみ、共に生活することで、興味や意欲が高まり、大きく成長する姿が見られています。乳児も夏の間は異年齢での交流を行い、夏ならではの様々な遊びを経験できるようにしています。散歩や活動時には、保育士間で連携して活動を計画し、日常的にも異年齢で交流し、クラスの枠を超えて気軽に行き来をしています。

5歳児は毎年「おいもパーティー」をして、部屋に他クラスを招待しています。部屋の飾りや招待状を作り、当日はテーブルクロスを敷いて、他クラスをもてなすことを楽しんでいます。年下の子どもは、してもらったことをうれしく感じ、「おいしい」「ありがとう」などを素直に伝え、やりとりも喜んでいきます。自分たちも、5歳児になったら、同じようにやってみたいというあこがれを持っています。異年齢保育を通して職員間のチームワークやコミュニケーション、連携もより密接になっています。

4. 地域の応援隊の方々や、幅広い年齢層の方との交流により多くの体験を積んでいます。

保土ヶ谷区の保育園では「応援隊」の方との交流をしています。藤棚修理や人形づくり、ままごと用のおもちゃ作りなどをしてもらっています。運動会などの行事への参加では、見てもらうだけでなく、子どもたちとふれあって遊ぶことも楽しんでもらいます。園庭のピオトープの清掃や管理を長年行ってもらい、ピオトープのメダカを友達と一緒に見たり、5歳児は当番がエサやりをしたりして楽しんでいます。応援隊の方の自宅の柿が実った時には、午睡中にフェンスに枝をくくりつけ、起きた子から「柿もぎ体験」をさせてもらい、子どもたちは大喜びで楽しんでいます。

夏まつりの「山車やおみこしの練り歩き」の際には、地域の方が道に出て、応援や見守りをしてもらっています。川島地域ケアプラザでの子育て親子広場「ぴーすらんど」に、幼児クラスが出向き、地域の親子と一緒にピアノに合わせてリズム遊びを楽しみます。特別養護老人ホームの「かわしまホーム」には、年に3回ほど5歳児が出かけ、手遊び・歌・体操・ふれあい遊びやあやとりなどを披露し、交流しています。また、節分の鬼の衣装を毎年借りて、園の節分行事を盛り立てています。

特に工夫・改善が必要と思われる点

1. 園の活動内容や地域との交流の様子など、より知っていただけるような情報の提供・発信、意思疎通を期待します。

園独自の新生児個人票と健康カードの使用や、個人ノート交換時の取扱い方法などを工夫して実施しています。保土ヶ谷区独自の応援隊との種々の交流、近隣保育室との連携、実習生の受け入れ、交流保育などにも参加してふれあっています。このような保育園の多くの活動や理念・意図が保護者に十分伝

わっているかという点も不十分のようです。保育園からの働きかけを、より積極的に行うことを期待します。

2. 保育園の民間移管について、地域・保護者・関係者へあらゆる機会を通して丁寧な説明を期待します。

近隣の横浜市川島保育園がまもなく民間へ移管の予定です。向台保育園も今後、移管の予定です。地域の方の不安を解消することや保護者への配慮も大切になります。事前の準備や情報をオープンにし、あらゆる機会を通して丁寧に説明することが望まれます。職員への説明や引き継ぎなども重要で、日常の保育に支障のないよう、フォローしていくことを期待します。

横浜市福祉サービス第三者評価（保育分野）

評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類	評価結果	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念として『自然との関わりを大事にしながら思いっきり遊び、自分も友だちも大切に認め合える力を育てます』を掲げ、園の特色を考え、より伝わりやすい言葉になるよう職員間で話し合っって決めた保育目標、『自然大好き 自分大好き 友だち大好き 一緒に遊ぼう』を共有し保育に取り組んでいます。 「自然大好き」は、森があり、空が広く、散歩では自然物を集めたり、夏は川遊びや虫探しもしたりできる自然豊かな環境にあり、自然の中で子ども自身気づきや、変化を感じる心、挑もうとする気持ちなどを大切にしています。 「自分大好き」は、特に大事にしている部分で、愛され大切に思われて育つことで、子どもは自分を好きになり、自分らしくいるのが一番という自己肯定感を持つことを育んでいこうとするものです。 「友だち大好き」には、園内の人との関わりにとどまらず、地域の子どもたちや地域に住んでいる人たちとも、友達であるという意味があり、地域に見守られ交流する中で育つ、子どもたちの姿を大事にしています。 ・保育理念、保育目標、保育姿勢は、各クラスと廊下に掲示をし、保護者や来園者にもわかるようにしています。保育目標は年度末に見直し、年度初めに職員会議の中で、その言葉の意味を繰り返し確認し、年間・月間指導計画の中に取り入れ、保育に活かしています。 ・向台保育園には、卒園児の保護者が作成した、「シンボルマーク」があります。園の環境をわかりやすくマークにしたもので、毎月の園だよりや保育目標などの説明図（りんごの木の図）の挿し絵としたり、行事の際に職員が服に付けて、大事にしています。職員はクラスにとどまらず、園全体で子どもたちを見守り、子どもたちの心に寄り添い一緒に喜び共感しています。 ・園の周囲は、自然豊かな土地で、陣ヶ下溪谷公園など、子どもたちが自然とふれあいながら、のびのびと遊べる環境となっています。保育課程はこうした地域特性を活かしながら、子どもの最善の利益を考え、恵まれた自然環境の中で、大切な経験をつんで育ててほしいという想いを持って作成しています。 ・保育目標である『自然大好き 自分大好き 友だち大好き 一緒に遊ぼう』を実際の保育の中で生かしていくよう、毎年見直しを行いながら保育課程を作成しています。 各年齢の担任が主となって見直しをすることで、常に子どもの姿にあったものとなるように考えています。1歳から6歳までの保育の一貫性を大切にしています。 ・保護者には、入園説明会で、保育課程を可視化した「りんごの木の図」を配布し、説明をしています。保育目標をもとに立てた、月の目標、保育内容、具体的な活動を各クラスに掲示することで、保護者が園での様子に関心を持ち、子どもたちと共有できるようにしています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保育課程に基づく年齢ごとの年間指導計画や月間指導計画は、養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を意識して作成しています。幼児クラスは、子どもの興味や関心をとらえ、集団の中での成長を考えて作成し、生活や遊びの中から出た意見や発想を発展させ、行事などの表現活動につなげています。 ・乳児クラスは、一人一人の興味や関心をもとに、意欲を育て、家庭とも連携できるように考えて指導計画を作成しています。言葉の表現がまだ十分ではない時は、様子をしっかりとらえ、気持ちをくみ取っています。また、子どもの気持ちを確認しながら、言葉にして代弁し、伝えたい思いを大切に反映させています。
--	---

<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会の個別の面談では、保護者記載の「新入児個人票」を基に、特に配慮を要する部分は詳しく聞き取りをし、保護者と対応方法を確認しています。説明会には調理員も参加し、食物アレルギーや食事に不安がある場合は同席しています。乳児には食材表を使用し、現在の食事の状況を保護者と共有しています。入園後も無理なく安心して進められるように配慮しています。 ・入園説明会には、なるべく親子で来てもらい、子どもの様子を、多くの職員で観察するようにしています。保護者の質問には丁寧に応じ、面談内容は職員会議などで報告し、職員間で共有しています。 ・短縮保育は、子どもが園生活を楽しく進めていくための準備期間として大切なので、子どもの状況によっては長くなることもあり、無理をしないようにしていることを伝えています。保護者の仕事の関係に合わせて、期間を調節することもあります。 ・入園初日は親子で食事まで過ごすようにしています。保護者に園を知ってもらい、担任との信頼関係を築くことで、子どもの安定につながるようにしています。複数担任の場合は、常に子どもたちの様子について話し合い、必要な場面では、同じ子どもや同じ場所につくようにし、より安定するようにしています。 ・進級準備の際に、新入児の「個人マーク」などを在園児が見つけた時には、新入児への親しみや期待を持つような言葉かけをし、在園児の不安が、少なくなるように配慮しています。 ・保育課程を基に、各クラスが年間指導計画を作成し、園の特徴としての『自然』、『異年齢保育』、『食育』の項目を設けて、力を入れています。幼児3クラスは、園の特徴をより活かせるよう、項目を同じに設定した上で、クラスの思いや方向性なども、話し合っています。期ごとの自己評価欄があり、振り返りを年4回行っています。 ・乳児クラスは個別月間指導計画、幼児クラスはクラス別月間指導計画を作成し、計画の中に取り組みの状況と保育士の振り返りを記入する欄があり、計画作成と評価・見直しが一体的になっています。 ・保護者の意向や意見なども、職員ミーティングや職員会議の時に、職員間で共有しています。乳児・幼児とも、保護者向けに各月の目標や月案を提示し、保護者が園での様子に関心を持ち、子どもたちと共有できるようにしています。保育中
---	--

の写真を掲示し、保育内容の可視化も行っています。

I-3 快適な施設環境の確保

- ・毎朝、安全点検や園庭、園庭回りの清掃を最初に行い、子どもたちが気持ちよく一日が始まり、安全に過ごせるようにしています。
室内・トイレの掃除マニュアルに沿って、毎日室内外ともに掃除を行い清潔に保つようにしています。「トイレ掃除チェック表」があり、掃除した時間と職員名を毎日記入しています。
- ・室内の温度・湿度は保育日誌に記入し、湿度が低い時は、加湿器を使用し配慮しています。
- ・幼児クラスは一つの空間になっているので、音が出る活動内容は確認しあっています。隣のクラスの活動がよく見えるので、クラスに偏らず、子どもたちの興味や意欲につながっています。
- ・保育士は全体に伝える時、個人に話をする時など、状況に合わせて話し方を工夫し、きちんと伝わるようにしています。
- ・温水シャワーは、乳児トイレ・幼児トイレ・園庭のシャワー栓の3か所にあり、園児だけでなく、園庭開放利用の親子も、自由に使用できるようにしています。
トイレ内のシャワー設備は毎日掃除をし、加湿器の水は毎日取替え、フィルターは週に1回清掃を行っています。
- A**・シャワーは排泄後の始末や夏場の汗流しなど、清潔保持に使用しています。また、1歳児室内の温水栓では、食事の時の口拭きタオルを濡らしたり、園庭の温水栓では、冬場の足洗い用に使用したりしています。排便や嘔吐時のシャワー後は、マニュアルに沿って、シャワーまわりを消毒しています。
- ・平成24年度の耐震リフレッシュ工事により、保育室を1歳児と2歳児に分け、1歳児の部屋を広げ、乳児用トイレを新設しています。1歳児室は子どもたちがより安全で安心して過ごせるように、食事と睡眠の空間を分離し、2歳児室は、遊びの充実と生活の流れを考えて、室内の使い方を工夫し落ち着いて過ごせるようにしています。
- ・3・4・5歳児の幼児3クラスは、1フロアをスライディングで分けた、2部屋で生活をしています。1年間の3クラスの組み合わせを2部屋に振り分け、異年齢交流の環境を整えています。年度の初めは3歳児が1部屋で、夏期には3クラスが合同で、年度の後半は5歳児が1部屋で過ごすような工夫をしています。
乳児も夏の間は異年齢交流を行い、夏ならではの様々な遊びを経験できるようにしています。乳児も幼児も朝と夕方は、各々1クラスで遊んでおり、散歩や活動時には保育士間で連携して活動することが多く、日常的に異年齢で交流し、クラスの枠を超え気軽に行き来をしています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力

- A**・3歳未満児は横浜市の月間指導計画の様式の中に、個別の欄があり、全員の現在の様子と、今月のねらい（内容）、配慮や家庭との連携を記入しています。幼児クラスの配慮が必要な子どもは、月間指導計画の個別配慮欄に、現在の様子と、今月のねらい（内容）、配慮や家庭との連携を記入しています。指導計画は、前

	<p>月の自己評価を行い、子どもの姿や保育者の関わりの変化を踏まえて記載しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもへの対応は、クラス内の職員同士で相互理解をするために、クラス会議を行っています。保育会議の前には、乳児・幼児の会議で、子どもの状態に合わせたケース会議を行い、月々の保育会議では、個別のケースを報告し、職員間で話し合っ、援助について振り返り、より良い対応を考えています。毎月末には、取り組み状況確認と振り返り、自己評価を行っています。 保護者からは、食事の形態、箸について、トイレトレーニングや睡眠時間についてなどの相談内容が多くあります。個人面談やクラス懇談会の中で話をしたり、保育参加や保育参観を呼びかけたりして、様子を直接見てもらうこともあります。解決に向けて保護者の考えも確認し、保育計画に取り入れています。 入園時に提出してもらう「児童票」や「健康台帳」には、各家庭の状況や園への希望、子どもの健康などについて記入してもらっています。また、園独自の「新入児個人票」にも子どもの状況や配慮してほしいことなどを記入してもらい、個別の面談で聞き取っています。子どもの成長の様子や各家庭の状況は、1年を2期に分けて個別に経過記録に記載しています。 身体計測は毎月行い、結果は「身体測定表」に記入し、保護者にその都度報告しています。「健康台帳」には、月ごとの身体計測や、年2回の健康診断結果を記載しています。「児童票」、「経過記録」、「健康台帳」などの個人情報、事務所の鍵のかかる書庫に保管してあり、必要に応じて、全職員が確認できるようにしています。保護者が訂正する場合も、事務所で行うようにして、原則持ち出し禁止としています。 進級時には必ず旧担任から新担任へ、引継ぎを行っています。経過記録を基に一人一人の発達や配慮事項、各家庭の状況などを引き継ぎ、引継ぎの記録は「児童票」・「健康台帳」と一緒に保管しています。クラスに新担任が入り、保育を体験することもあります。小学校就学時には、各小学校へ保育所児童保育要録を送付しています。なめらかな接続のため、小学校教諭に直接引き継いだり、必要があれば様子を見に来てもらうこともしています。
--	--

<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 入園説明会の個別面談では、保護者記載の新入児個人票を基に、特に配慮を要する部分は詳しく聞き取りをし、保護者と対応方法を確認しています(熱性けいれん、肘内障、アレルギー全般、生育歴、持病、体質、障害など)。その後の職員会議などで報告し、職員間で共有しています。記録はファイルに綴じ、全職員がいつでも確認できるようにしています。 職員は、西部地域療育センターなどの研修に参加し、情報や対応を学んでいます。研修報告は回覧し、他の職員にも周知しています。横浜市の巡回看護師に、電話で相談し、アドバイスをもらうこともあります。障害児や特別支援児については必要に応じて、地域の西部地域療育センターなどを利用しています。職員が実際に療育を見たり、センターの職員から障害の研修を受けたりする機会を活かし、最新の情報を得ています。 園内はトイレも含めバリアフリーになっています。配慮を要する子どもが入所す
----------------------------------	--

る時には、その都度、保土ヶ谷区役所と相談し可能な工夫を考えています。

- ・障害児の受け入れについては、入園説明会の中で、全保護者に説明し、統合保育への理解を求めています。西部地域療育センターなどを利用している障害児や特別支援の子どもは、通所の前後に面談を行い、園での様子を伝えたり、療育での様子やアドバイスなどを聞いたりして、園でも同じ対応をするようにしています。アドバイスを活かし、一人一人の特性に配慮し、個別支援計画を作成しています。

- ・保育士は個々の特性に適した対応を考え、集団の中で不安なく過ごせるように援助しています。子どもたちは、保育士の対応を見て、自然と関わりを持っています。

障害に応じて、障害児の座席、話を聞く場面の位置、布団を敷く場所を考えたり、ついたてを使ったり、遊ぶ時以外はおもちゃに布をかけて刺激を少なくし、特性に配慮した環境設定を工夫しています。また、障害児によっては、場面の変化に対応できるように、一日のタイムスケジュールを可視化したものを表示しています。

- ・児童虐待の防止などに関する法律の中の、虐待の定義を全職員で確認をしています。虐待が明白になった場合には、すぐ保護につながるように、保土ヶ谷区子ども家庭支援課、ケースワーカー、西部児童相談所、嘱託医、保健師と常に情報を共有し、ケースカンファレンスを開き、対応を協議しています。

- ・虐待が疑わしい時には、保土ヶ谷区役所と連携しながら、観察、記録（写真と時系列）を続けます。登園時には、子どもの様子をよく観察し、ケガやアザがあった時には、すぐに保護者にどういう状態であったのかを確認しています。その時の保護者の様子も気を付けています。

- ・家庭生活の中で、保護者が子どもの対応に困っている時には、個人面談を持ち、話を聞く場を設けています。保護者の気持ちを受け止めるとともに、子どもの成長を、様子を見ながら伝えています。園では親子のつながりを大切に想い、行事の時（懇談会、運動会、おたのしみ会など）には、必ずふれあい遊びを取り入れています。運動会準備には、親子での万国旗作りを毎年行い、当日は飾って、つながりを感じられるようにしています。

- ・保護者の希望や判断だけでなく、医師の意見書「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」に基づいて、除去食の対応をしています。「生活管理指導表」をまず持参してもらい、園長、調理、担任と面談を行っています。

除去食対応についての説明を行い、家庭での子どもの様子を丁寧に聞き取るようにしています。「生活管理指導表」の中の対応票で、誤食時の緊急連絡先や対応についても確認をしています。

- ・年度初めには、「保育所における食物アレルギー対応マニュアル」を、全職員で確認し、アレルギーについての基本的な知識や情報を共有しています。調理員と保育士で、各クラスの状況を確認し、改善が必要な部分の見直しを行っています。食物アレルギー児童の保護者とは、月末に翌月の献立の対応について、園長、調理、担任と話し合いを必ず持って確認をしています。その際、一人ずつの対応入りの献立表を作り、保護者に確認のサインをもらっています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、アレルギー除去食児童の出席を確認するため、調理室のホワイトボードにマグネットの表示を行うとともに、その日の対応について保育士が調理と確認をしています。他の保育士もマグネット表示を見ることで、アレルギー除去食児童の出欠席が確認できるようにしています。 配膳前に各クラス内で声出し確認をし、調理室前でも声出し確認と目視を行い、間違えないように、クラス内で最初に配膳しています。クラスで机に置く時も、複数で声出し確認と目視をしています。 ・災害避難時には、アレルギー食材が表示してある子ども用のバッジや、アレルギー除去食児童専用の敷物を用意しています。また、遠足での弁当時も、座る位置に気を付け、職員が必ず側につくことを職員間で事前確認し、対応をしています。 ・日々の生活の中で、様々な国や文化について子どもたちに伝えています。日本以外にもいろいろな国や人がいることを、国旗の本や絵本なども使い、わかりやすく話しています。 ・保護者から家庭での言語、食事や排泄などの生活状況を聞き、園での生活を伝えながら、安心して過ごせるように努めています。 宗教食に関しては、調理員が献立をチェックし、担任経由で保護者に伝え、除去対応できることを行います。必要に応じて、お弁当を持参してもらっています。園での食事の様子は、保護者にも伝え、安心してもらえるようにしています。 ・お知らせや個人ノートは、わかりやすいようにルビを振ったり、ひらがな書きにしたり、ローマ字がきにしたり、その保護者に伝わる方法で伝えています。また、語学が堪能な他の保護者に通訳をお願いすることもあります。 尿検査の採取や日本スポーツ振興センターの説明、入園のご案内（重要事項説明書）は、多言語のものを用意があります。
--	--

<p>I—6 苦情解決体制</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園時に配布する「入園のご案内」（重要事項説明書）の中で、苦情解決制度を説明し、保護者に伝えています。担当の第三者委員が、行事に参加した時には、保護者の前で紹介しています。 ・保育所の自己評価の中で、毎年保護者アンケートを行っています。保護者の要望や意見、園への理解を確認し、対応を考え改善しています。結果は各クラスのファイルに綴じて、公表をしています。懇談会でも園への要望や意見を聞いています。保護者参加行事（運動会、おたのしみ会）後はアンケートを行い、結果を公表し次年度に活かすようにしています。 ・園児や保護者には、普段より、積極的に声をかけ、様子を伝え合い、コミュニケーションをとるようにしています。個人面談の時などにも必ず、園への意見や要望を、聞くようにしています。 ・日々の細かな要望や苦情などは、職員ミーティングで職員間周知し、対応を考え、改善に努めています。個々の要求は迅速な対応を心がけ、できることから行っています。保護者からの子どもへの対応についての要望で、引継ぎが必要な内容や、長期にわたるものは、経過記録に記録しています。 園前の駐車に関してなどルールの確認が必要なものは、チラシを配布しながら、
--------------------------	---

	<p>送迎が安全にできるようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部の権利擁護機関については、廊下にもチラシを掲示し知らせています。担当の第三者委員には行事へのお誘いや、園だよりを毎月送り、園の情報の提供に努めています。
--	--

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

<p>Ⅱ-1 保育内容 [遊び]</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 各年齢で、遊びの種類により、遊ぶ場所を考え安定して楽しめるように、柵などは低く設定して子どもが自分でおもちゃなどを取り出しやすいようにしています。子どもがわかりやすいイラストや写真で中身を表示して、成長に合わせた工夫をしています。 遊びは、保育士と楽しむ、一人でじっくり遊ぶ、友達と楽しむなど、その時により遊びこめるようにしています。子どもの年齢、活動や興味に合わせて、手作りのおもちゃなどは保育士が作っています。身近にある素材を工夫して準備することで、子どもの発想で、自由に遊べる環境にしています。 幼児は子どもが自由に製作をしたい時に、紙、折り紙、空き箱、ハサミ、のり、セロテープ、色鉛筆 クレヨンなどを出せるように用意をし、5歳児クラスでは、個人の道具箱を使用し、自分の持ち物として、鉛筆 クレヨン、のり、ハサミを自由に使うことができるようにしています。 周囲に自然が多くあり、子どもが散歩などで集めた自然物で遊んでおり、どんぐりや 葉などでの製作も、楽しんでいます。園内でもいろいろな虫がいるので、虫かごや虫とり網などを活用しています。観察したり、図鑑と見比べたりできるようにしています。 毎日のデイリープログラムに変化をもたせ、日々の生活や遊びの中でバランスの良い活動となるよう自由遊びの時間を設け、子どもの遊びによっては、時間を考え工夫しています。 一人の気づきを保育士が受け止めて、それがクラスの活動へ発展することがあります。数人で始めたままごと遊びの中で、お店屋さんごっこが始まり、折り紙で財布やお金を作って、やり取りをしながらの遊びが、子どもたちの中で制作意欲が高まり、クラスみんなの活動に広がっています。クラス内で楽しんでいるうちに、「他のクラスも買いに来てほしい」ということになり、最後には、1～5歳児の全員でお店屋さんごっこを楽しむことがあります。 子どもたちを園全体で見守り、家庭的な保育を大切にしています。職員は、それぞれの子どもの特徴を把握しているので、興味や関心を持ったことに対して、適切な援助を行うことができます。 乳児は、全体の中で絵本を読んだり、ペープサート（絵人形劇）を見たり、リズム遊びや体操をしたり、興味に合わせてみんなで一緒に楽しんでいます。幼児では、朝の会、政策、ゲームやリズム遊びなどの活動を行っています。一人一人の理解を考慮した上で、伝え方を工夫し、人の話を聞く姿勢が持てるようにしています。 遊びの中の約束ごとは、子どもたちの様子に合わせて決めています。みんなが納得できるルールを積み重ねていくことで、子どもたち自身もルールを守ろうとす
----------------------	--

る気持ちが出てきています。

・園の裏に畑があり、幼児は保育士と一緒に、土作りから行っています。乳児も興味を持って土を混ぜたりし、一緒に土の感触を楽しむこともあります。

毎年、子どもたちの希望を聞き、じゃがいも・ラディッシュ・オクラ・枝豆・きゅうり・トマト・ピーマン・大根・さつまいもなどの種まきや苗植えをしています。子どもたちは水やりや草むしりなど世話をしながら、成長を楽しみにしています。

・収穫した野菜は園で調理をして、給食として食べる機会があります。自分たちで食材を洗ったり種を取ったり、切る様子や焼く様子を見て、匂いを感じたりしています。目の前で調理をすることで、より一層喜んで食べています。

計画時より調理員とも打ち合わせを行い、協力して行っています。収穫した野菜を、家庭に持ち帰り親子で味わったクラスもあります。

・5歳児は毎年、おいもパーティー、ポップコーンパーティーなどを行っています。部屋でホットプレートを使って焼き、他クラスを招待しています。部屋の飾りや招待状を作り、当日はテーブルクロスを敷いて、他クラスをもてなすことを楽しんでいきます。年下の子どもは、してもらったことをうれしく感じ、「おいしい」「ありがとう」などを素直に伝え、やりとりも喜んでいきます。自分たちも、5歳児になったら、同じようにやってみたいというあこがれを持っています。

・園庭や室内で、子どもたちと一緒に、チューリップ、ヒヤシンス、ホウセンカ、パンジー、ノースポール、マリーゴールド、朝顔などを育てています。水やりをしながら、花が咲くのを楽しみにしています。夏には、子どもたちは、朝顔を使った色水遊びや、種取りを楽しむことができます。また、砂場の藤棚の藤や、フェンスのモッコウバラは毎年咲き、匂いをかいだり、花や実で遊んだりしています。5歳児は食事の際、園庭に咲いている花を見つけると、食卓に飾ることもしています。

・散歩は、年間指導計画・月間指導計画に記載をしています。春は近隣の公園へ行き、桜の花を見に行ったり、たんぽぽやつくしなどの野花を摘んだりしています。夏は、陣ヶ下溪谷公園で沢遊びを楽しんだり、西谷浄水場のプールに出かけたりして、夏ならではの遊びを楽しんでいます。

秋は陣ヶ下溪谷公園の中を散歩したり、落葉や木の実拾いなども行ったりして、四季の自然を楽しんでいます。冬は、雪の上を歩く経験をしたり、雪だるま作りをしたりしています。

・散歩などで地域の方に会った時には、保育士が率先して挨拶をすることで、子どもたちも挨拶をしています。子どもたちは、来園者に自ら挨拶をしたり、話しかけたりしています。交流保育に来た親子にも親しみを感じて、一緒に遊んでいます。

・幼児クラスでは、自分で色々なイメージを広げ、自由な製作を楽しんでいます。クレヨンや色鉛筆などが身近にあり、好きな絵をかいています。色画用紙や折り紙など、子どもたちが自由に使える材料があり、身に着けるものを作って、なりきり遊びを楽しんでいます。

- ・運動会では、5歳児がソーラン節を踊っています。その自信をもって行う姿にあこがれて、他クラスも真似ています。運動会后、5歳児が他クラスと一緒に踊る機会を持つと、小さい子どもたちも難しい踊りを真似ています。
- ・おたのしみ会では、好きな話を基にした劇遊びを行っています。なりたい役になりきって、セリフを言ったり、歌ったりすることを楽しんでいます。
- ・各クラスの年間指導計画には、向台保育園の特徴としての『異年齢』の項目を設けて、力を入れています。
- ・乳児クラス、幼児クラス各々で、夏の期間は異年齢で生活をしています。幼児は3～4人の仲良しグループを作り、夏の異年齢交流で関係を深め、秋以降の生活や行事でも交流する場を持っています。朝夕一緒に過ごしたり、互いの部屋を行き来しあったりしているので、自然に興味や意識が芽生えています。年下のクラスへのお手伝いなどは、子どもの思いを受けとめ、すぐに応じられるようにしています。
- ・幼児3クラスはスライディングで分けた、2部屋で生活しています。
4月から7月初めまでは、進級した3歳児が、落ち着いた環境で、気持ちの安定を図ることができるように、単独で生活をしています。4・5歳児は前年度の関わりを深めながら、同じ部屋で生活しています。夏の間は3クラスの異年齢と一緒に過ごしています。同じグループの子ども同士が親しみを持ちながら、大きな集団への活動にも、安心して入っていけるように進めています。この経験が秋以降の、散歩や行事などにつなげられるようにしています。幼児は3クラスで夏の遊びなどを思い切り楽しみ、ともに生活することで、興味や意欲が高まり、大きく成長する姿が見られています。9月以降は、5歳児が就学へ向けての活動の充実を図るために、単独で生活をしています。3・4歳児は同じ部屋で生活をし、夏からの関係をより深め、刺激をお互いにもらっています。4歳児は3歳児を引っ張っていく姿が出てきたり、3歳児は夏の経験から、4歳児にも親しみを持ち、落ち着いて生活できるようになったりしています。一年を通して、子どもたち同士の信頼関係が深まり、一人一人の良さや、興味があることがわかり、年齢に関係なく、遊びを楽しむことができます。
- ・乳児も夏の間は異年齢交流を行い、夏ならではの様々な遊びを経験できるようにしています。2歳児は年下の1歳児に優しく接したり、1歳児は2歳児の真似をして少し難しいことにも取り組もうとしたり、お互いに刺激を受け合っています。秋以降、1歳児と2歳児の子ども同士の自然な交流が増え、保育士も、他のクラスの子どもたちとも信頼関係を深めています。
- ・子どもたちは、お互いの保育室をのぞき、様子を見たり、声をかけたり、自然にふれあっています。
- ・少人数なので、職員はどのクラスの子どもたちのことも把握しています。子どもたちも、担任でない職員にも、自分を表現できる信頼感を持っています。
- ・散歩は、距離や遊具などを考慮し、年齢に応じた公園へ行っています。園にない遊具を活用することで、体を大きく動かして遊んでいます。陣ヶ下溪谷公園や川島緑地が近くにあり、森や川など自然環境が豊かです。木の根っこや砂利道、ぬかるみを歩いたり、斜面登りや木登りや階段の上り下りもあり、子どもたちは

	<p>様々な体の動きを経験したりしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭では、フラフープ、なわとび、ボール、三輪車、ぼっくり、跳び箱、マットなどを、子どもたちの求めに応じて出せるようにしています。太鼓橋や鉄棒などの固定遊具は各自の発達状況を担任が見きわめ、クラス一律ではなく、一人一人の発達状況に合わせた見守りや援助をしています。子どもたちのやりたい気持ちを大切に、保育士も一緒に喜び、次への意欲へつなげています。 <p>園庭の使い方を工夫し、乳児が入室後、園庭全体を使ったドッジボールやリレーなどを楽しんでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内でも、体を動かせるように、鉄棒・マット・平均台・牛乳パックの台などを活用しています。年齢や発達に合わせたリズム遊びを取り入れています。ピアノの音に合わせて、身体や姿勢を意識する動きを楽しんでいます。
--	---

<p>II-1 保育内容 [生活]</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児は自分でおかわりをよそったり、食後自分のお皿を下膳したりしています。一人一人の食べられる量を保育士が把握して調整をし、気持ちよく食べきれ経験で満足できるようにしています。子どもの成長に応じ、できることを食育研修内で確認しています。 ・調理前の食材を、クラスで直接見たり、手でふれたりする経験を大事にしています。年齢に応じ、皮むきやサヤから出したり、スジを取ったりなどを行い、感触や匂いを感じながら楽しんでいます。また、目の前で食材を切るのを見ることで、その食材に興味を持ったり、食べられるようになったりすることもあります。 ・子どもが、好きなもの、苦手なものなどを表現できるように、食材名、味を伝えるなど言葉かけを工夫しています。家庭では野菜を食べない子どもも、園で友達と一緒に食べることで、自ら食べようとする意欲につながっています。 <p>自分たちが育てた野菜には親しみを感じながら、かんたんなクッキングをして食べることも行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食前に、横浜市発行の「ぱくぱくだより」を伝えることで、食材や献立に興味や関心をもって、食べています。 <p>5歳児は「ぱくぱくだより」の色塗りをし、食材や献立に興味を深めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理員は各クラスを回り、食事の様子を見たり、声をかけたりしています。子どもたちは、調理員とふれあい、より親しみを感じています。 <p>園内の保育士・調理員が参加する食育研修では、各クラスの食事の様子や、成長を報告しあっています。皮むきやかんたんな盛り付けなどの調理活動も行い、食への意欲増進に役立っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事食として、献立にはないお月見用の「団子づくり」を4・5歳児が行い、畑で収穫したさつまいもの「お芋ご飯」を作り、季節を身近に感じるよう工夫しています。 <p>自分のケーキに粉糖をかけたり、クラッカーサンドを作ったり、子ども自身が</p>
-----------------------	--

できることを行い、楽しんで食べることができるようにしています。

- ・食材はマニュアル通り、納品時の温度を測定し、納品書に記入しています。基本的に1日分ずつ納品し、使い切るようにしています。

毎日の職員ミーティング時に、献立の反省や感想を出し合ったものを記録し、次の食材の切り方などに活かし、食が進むように工夫しています。

- ・園内の食育研修で、子どもたちの成長を職員間で確認しながら、食具や食器を発達に合わせて変えていっています。1歳児のお皿は、フチが立ち上がったものを使用し、自分でスプーンに食材を乗せやすいように配慮しています。箸への移行は子どもの成長にあわせて使用を始め、スプーンなども併用しています。

- ・蒸しパンなどは、セイロをクラスに持っていき、できたてを目の前で配膳することで、興味を持つように工夫しています。シチューの時は、お椀ではなくお皿を使用したり、献立に合わせて食器を工夫したりしています。

- ・残食の状態は、給食日記に記録しています。子どもが食べにくいメニューや残食が多かった時は、同じ食材での形状を変更して発注したり、切り方や盛り付け方を見直したりしています。

- ・横浜市の栄養士が作成した献立表（乳児用、幼児用）は月末に配布し、家庭での参考にしてもらうようにしています。また、食材を確認してもらい、経験していないものは、家庭であらかじめ試してもらうようにしています。

廊下のサンプルケースには、“ばくばくだより”のほかに、献立のポイントや人気の献立レシピの持ち帰りなどの情報提供も行っています。園だよりに、レシピを載せる月もあります。

- ・入園初日は親子で食事まで過ごすようにしています。保護者には、給食の量や固さを見てもらいながら、保育士や調理員は、家庭での様子などを聞きとり、翌日からの給食に活かしています。

乳児は個人ノートで、家庭と園での食事内容を伝えあい把握しています。保護者の食事への悩みに応えたり、必要があれば個人面談を行ったり、保護者に食事の様子を見に来てもらっています。

- ・クラス懇談会後には、保育参加を設け、親子で一緒におやつを食べています。クラスによっては、親子でおやつ作りも楽しんでいます。

- ・入園当初の1歳児は、個々のリズムを大事にしながら、その子に合わせて抱っこなどで眠れるように配慮しています。起きている子はスペースを分けて遊んだり、園庭に出て気分転換をしたりして落ち着くように配慮しています。

心の拠り所の物の持ち込みは、受けるようにしています。子どもの様子を見て工夫し、安定を図っています。

- ・5歳児の午睡は、その年の子どもたちの状況を見ながら、早目に起きるなどの対応をしています。

- ・保育士は、個々の排泄のリズムをつかむようにしています。年齢や子どもの発達に合わせて、全体でトイレに促したり、おむつ替えをしたりしています。一人一人の様子によっては、個別に声もかけています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレトレーニングを始める時には、家庭と園での様子を伝えあい、個々の成長を保護者と確認して、無理なく始めるようにしています。トレーニング中は、保護者に園での様子を伝え、保護者の考えや、子どもに対する思いも大切にしながら、進めています。年齢で進めるのではなく、個々の様子に合わせて、無理なく進めています。 ・おもしろやおねしょは、職員間で子どもの様子を共有しながら、シャワーなどの対応を行っています。幼児はシャワーカーテンを使用し、プライバシーを守っています。
--	---

<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児は個人ノートで、幼児は健康カードで一人一人の健康状態を把握し、必要によっては、口頭でも状態を伝えあっています。必ず引継ぎノートを活用し、保護者に伝え忘れないようにしています。職員間では昼の職員ミーティング時に健康状態についても、共有しています。 ・入園説明会後には、保護者に記入してもらった新入児個人票を見ながら、一人ずつ面談を行い、健康面で配慮が必要なことや対応方法など、細かに聞き取っています。記録した新入児個人票は児童票・健康台帳と一緒にファイルをし、いつでも職員が確認できるようにしています。注意事項や対応方法は別紙にまとめ、すぐ確認できるように出席簿に綴じています。 ・年に2回の健康診断や歯科健診の結果、毎月の身体測定結果は、個人用封筒に入れて、保護者に伝えています。健康診断は異常があれば個別に伝えています。歯科健診は、「歯科健康診断結果のお知らせ」に記入し、個人用封筒に入れて、一人ずつに渡しています。健診前、保護者に気になることや、囑託医に聞きたいことがある場合は、個別に対応をしています。歯磨きは、2歳児以上は毎日行っています。1歳児は子どもの様子に応じて、歯磨きを始めています。 ・感染症マニュアルがあり、保護者には入園説明会で、「市立保育所における与薬などの対応について」を紙ベースで配布をし、「感染症にかかった場合の登園許可証明書などについて」の項目で説明をしています。許可証には、医師が記入する「登園許可証明書」と、主治医の診断に基づき保護者が記入する「登園届」の2種類があることを伝えています。 ・保育中に感染症が疑われる場合は、連絡をして迎えに来てもらうようにしています。待っている間は感染を拡大しないように、事務所などで過ごすようにしています。降園後、適切な時に（インフルエンザ検査は発病後すぐには陽性が出ないので）通院してもらうように伝えています。 通院して、感染症の診断の場合は、園に連絡を入れてもらい、感染症が発症したことを各クラスに掲示しています。初めてかかる感染症の場合もあるので、病気の詳細を（潜伏期間、症状、登園についてなど）クラスに掲示し、子どもの状態を観察してもらうようにしています。 ・毎日、感染者数の最新情報を伝えています。横浜市衛生研究所が発行している「感染症に気をつけよう」（月刊）、「横浜市インフルエンザ流行情報」（週刊）などを職員ミーティングで共有し、保護者向けにも廊下に掲示をして、地域の情報を提供しています。
--	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・「看護職巡回訪問の手引き（横浜市立保育所）」を基に、「感染症マニュアル」を作成し、活用しています。年に2回、横浜市の巡回看護師が、巡回訪問に来て、子どもたちに手洗いや歯磨き指導などを実施しています。
--	--	--

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]	A	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアルは、職員で年1回話し合って見直しをしています。保育室に手洗いの方法を貼ってあり、確認をしながら洗っています。 ・マニュアルの「生活衛生」の項目に、感染症の対応方法や消毒薬などの項目があります。ノロウイルスの嘔物処理は、流行する前に、室内に備えている処理用品で、実際にシミュレーションを職員間で行い、いざという時に備えています。殺菌消毒剤の希釈液作りは、トイレに貼って、活用しています。 お尻洗いのマニュアルをシャワー台の脇に貼ってあり、衛生的に処理できる手順になっています。感染症の時期は、感染防止のため、手洗い後、職員はペーパータオルを使用しています。 ・トイレ掃除のマニュアルをトイレに貼っています。誰が担当しても、衛生的に掃除ができるようにしています。掃除後のチェック表（終了時刻と名前）も一緒に貼ってあり、活用しています。
--------------------------------------	---	--

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室のロッカーや棚には、転倒防止用具をはさんで、倒れないようにしています。午睡時は、脇に寄せたテーブルの上に、物を置かないよう配慮しています。下駄箱も建物に固定し、転倒しないようにしています。 ・保土ヶ谷区こども家庭支援課作成の、「保育・教育施設班活動マニュアル」があり、園内研修の中で確認をし、改訂をしています。 避難訓練は年間指導計画を作成し、様々な想定での訓練を、月に1回行っています。実施後は、防災避難訓練記録に反省や問題点を記載し、次の訓練に活かしています。 ・一年に1回、西谷消防署の消防士に、地震から火事発生の避難訓練を見てもらい、通報訓練も行っています。気になったところを聞き、改善しています。今年度は春先に、保土ヶ谷消防署の協力により、心肺蘇生法の園内研修を全職員参加で行っています。成人・幼児・乳児の人形を使用し、全員が同じ場で共有したことで、スキルを高め合うことができています。また、地域型保育事業所の山本保育室の保育士と一緒に参加し、お互いに学ぶことができています。 ・安全点検簿があり、保育士は屋外と屋内を、調理員は調理室のチェックを毎日実施しています。普段と違うことがあれば特記事項に記載し、園長に報告しています。改善できることはすぐに対応しています。内容によっては、職員ミーティングで情報共有をしています。 ・保護者への緊急連絡には、児童票の緊急連絡先の項目を使用しています。変更があった場合は随時、保護者が事務室で書き直すようにしています。その他に、毎年クラス懇談会で、児童票・健康台帳・園児引取人届出書をその場で確認・訂正をお願いし、常に最新の連絡先になるようにしています。 ・病院情報のファイルには、診療科目ごとに、通院できる範囲の病院の案内を入れ
--------------------------------------	---	--

	<p>て活用しています。園で通院をする場合は、保護者に主治医を確認するとともに、横浜市救急相談センターに電話をし、保育園から一番近く、診療時間内の病院を教えてもらい、参考にしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ケガをした時は、各クラスの保育日誌にはさんでいる「ヒヤリハット表」に記載し、クラス内で振り返った後、職員ミーティングや職員会議で報告し、再発防止の改善策を考え共有しています。記録は、午後の職員ミーティング以降のケガなども記録する欄を設け、周知に努めています。 <p>通院した時は、事故報告書に記載し、職員ミーティングや職員会議で報告し、再発防止について一緒に考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者への連絡事項は、引継ぎノートに記載し、伝えるようにしています。体調やケガなどで、翌日の登園時に家庭での様子を知りたい場合は、早番に聞いてもらうように引継ぎノートに記入しています。 <p>保護者には、日本スポーツ振興センターのしくみを説明し、対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不審者訓練を年2回行い、対応を訓練し、防犯に努めています。保土ヶ谷区役所からの不審者情報や、地域の住民からの情報も、職員間で共有し、防犯に努めています。 正門には、電気錠を設置して、登園後より一日中施錠して防犯に努めています。迎え時には、インターホンで一人ずつ顔や名前などを確認後、開錠しています。緊急時には警備会社に通報できる仕組みがあり、定期的に点検を行っています。
--	--

<p>II-3 人権の尊重</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 一日の保育の流れに余裕を持ち、子どものペースを尊重するようにしています。担任同士で連携をとったり、環境整備を事前に行ったりしています。 常に複数で保育をしており、子どもに対して威圧的な言葉遣いがないよう、職員間で配慮しています。職員間でも礼儀を持ち、敬意を払った話し方や、お互いの発言を尊重するなど、日頃より心がけています。子どもたちは大人の背中を見て、育っていくので、職員の姿勢も大事にしています。 人権研修などに参加して学んだことは、園に持ち帰り周知しています。研修報告などで意識付けをすることで、人権を尊重することを、全職員で認識しています。 棚や机やじゅうたんなどで仕切ったコーナーは、落ち着いて遊べる環境になるように考えています。一対一で子どもと話をする時には、状況に合わせて、その子どもが落ち着ける場所で行っています。その際、他の保育士が、自分のクラスを見守る体制があります。 幼児の個室トイレにはドアがついています。シャワーをする時は、シャワーカーテンを使用し、おねしょの後始末も目立たないように配慮しています。夏季の汗流しのシャワー時は、外部から見えないようにシートで囲っています。 医師の意見書により薬の処方がある場合は、プライバシーを守るため事務室で行っています。 年に1回、個人情報の取り扱いについて、園内研修を行い、全職員に周知しています。アルバイト職員は雇入れ時の説明で、個人情報の取り扱いと、守秘義務に
-------------------	--

	<p>ついて、「ハンドブック」を渡し説明しています。園内のことをSNSに載せたり、家族に話したりすることも、個人情報の流失になるため、気を付けるように伝えています。実習生やボランティア、職業体験の中学生にも同様に伝えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会で、園の個人情報の取り扱いについて、「入園のご案内」を見ながら、保護者に説明をしています。保護者会では写真販売に関する同意書を配布し、保育中に保育士が子どもたちの写真撮影をすることや、写真販売のデータをインターネット媒体への投稿禁止などに同意をした世帯には、写真撮影と販売をしています。同意書は園の書庫で、卒園まで保管しています。 <p>児童票などの個人情報は、鍵のかかる書庫に保管し、書類の訂正時も、事務室外への持ち出しをせず、事務室で保護者に記入してもらっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児の個人ノートには、名前と個人マークを表示しています。個人ノートに常時つけているゴムバンドには、名前と個人マーク、園の電話番号と「間違っ持ち帰った時は、開かずすぐ園に電話をください」と表示しています。他の子どものノートが間にはさまらないようにゴムバンドで止めています。登園時には、保育士がマーク入りのクリップを、個人ノートにつけて、受け取りの確認を行っています。 <p>降園時に保護者は、手渡しで受け取ったノートを、自分のものか確認後、保護者がクリップをはずして、保育士に戻すようにしています。保護者と保育士の間で、ダブルチェックを毎日行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で、色や遊びなどを性で区別することはしていません。その子自身やその子らしさを大事にしています。製作の時の色や、やりたい遊びもその子自身が選んでいます。順番、グループ分け、整列なども区別していません。 ・横浜市や各区が行う人権研修に参加し、各自の行動を見つめ直しています。研修報告を回覧し、参加していないテーマも把握するようにしています。
--	---

<p>II-4 保護者との交流・連携</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園のご案内（重要事項説明書）の中に、保育理念・保育目標・保育姿勢について記載しています。入園説明会やクラス懇談会の時に、これらを可視化したリンゴの木の図により解りやすく説明しています。クラス懇談会のレジュメにも、保育目標を載せて、保護者に伝えています。 ・毎月発行の園だよりには、保育目標を冒頭に載せています。園見学者などに配布しているパンフレットにも載せて説明しています。 ・保育所の自己評価の中で、毎年保護者アンケートを実施し、保育方針が理解されているかを確認しています。結果は3月に公表しています。 ・全クラスとも、クラスノートがあり、その日の園での出来事が保護者に伝わるようにしています。保育士のローテーション勤務のため、早番・遅番で保護者に会える時には、その日の様子を互いに伝え共有できるようにしています。 ・乳児は自分で様子を伝えることが難しいため、個人ノートで、健康・食事・睡眠・排泄について、互いの様子などを伝えあっています。 <p>幼児は健康カードを使用し、体調面に関して伝えてもらっています。口頭で聞</p>
------------------------	---

いたことは、引継ぎノートに必ず記載し、担任に伝えていきます。

- ・保育の様子を撮影した写真を掲示し、園での様子がイメージしやすいように伝えていきます。
- ・年に1回は全園児の保護者と個人面談を行っています。園が必要な場合や、保護者の要望にこたえて、複数回行うこともあります。
- ・保護者には、いつでも相談に応じられることを伝えていきます。立ち話で相談された時は、周囲に気を配るようにしています。必要があれば、事務室を利用するようにしています。プライバシーを守りながら、落ち着いた話せる環境を持つようにしています。
- ・保護者から相談を受けた内容は、職員間で共有し、助言を受ける必要がある時には、保土ヶ谷区役所のケースワーカーや保健師、西部地域療育センターや内容によっては児童相談所などと、連携をとる場合もあります。
- ・相談内容は、保育日誌や経過記録に記録し、書庫に保管しています。毎月の指導計画やケース会議などで、職員間で共有し、継続した対応をしています。
- ・毎月、園だよりを発行しています。2ヶ月分の行事予定を載せ、日程が組みやすいようにしています。年間行事予定表は前年度に配布しています。
- ・保護者参加行事は、1ヶ月前に日時や内容などを、クラス掲示しています。1週間前には、詳細内容のレジュメを配布し、周知に努めています。対応が必要な保護者には、個別でも伝えていきます。
- ・前期のクラス懇談会では、保育目標やクラス目標を伝え、保育で大事にするところや、活動内容などを伝えていきます。保育園の一日をスライドショーで見てもらい、イメージを持ちやすいように工夫しています。後期のクラス懇談会では、写真などで成長の様子を伝えていきます。大好きな絵本やおもちゃや手遊びの紹介も行っています。
- ・全クラスで、毎月の目標を保護者にもわかりやすい表記に直して、活動予定とともに掲示をしています。
- ・運動会では万国旗を、毎年親子で作成しています。親子で手型を取り、色塗りをして仕上げ、飾るのを楽しみにしています。当日も親子でのふれあいを大切に、親子競技や親子ダンスを取り入れています。
- ・おたのしみ会では、年齢に合わせた表現あそびを工夫し、見てもらったり、親子で一緒にふれあいながら楽しめるようにしたりしています。
- ・保護者参加行事に都合で来られない場合は、練習の様子を見てもらうなど工夫をしています。また、後日時間を設けて、見てもらうこともあります。
- ・クラス懇談会に参加できなかった時は、レジュメを見ながら説明をし、情報共有できるようにしています。
- ・園長は保護者会の総会に参加し、必要なことは説明をしています。保護者会会長と園長は、月1回の役員会前後に行事の打ち合わせをしたり、議事録を通して意見交換を行ったりしています。
- ・人形劇の手配、夏まつり、運動会、おたのしみ会、進級のプレゼント、写真の販

		売など園生活や行事において、子どもたちのためにできることを協力しあっています。
--	--	---

評価領域Ⅲ 地域支援機能

<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流保育や園庭開放、育児相談を行い、地域住民を受け入れています。交流や講座終了後、参加の保護者にはアンケートを行い、感想や希望を職員間で共有し、次へとつなげています。 園内の育児講座も保育士が担当し、地域の親子対象で、おやつ作りなどを行っています。調理員も協力体制で、食事に関する質問にも答えています。 ・川島地域ケアプラザでの子育て連絡会や、要保護児童対策地域協議会（年に１回）に園長が参加し、近隣の小中学校や、地域の子育て支援者や施設、保土ケ谷区こども家庭支援課の保健師やケースワーカー、保土ケ谷区の社会福祉協議会などと情報共有をしたり、研修の報告を聞いたりして、意識を高めています。 ・園庭開放は平日の毎日９時半から１１時に行っています。園内での、地域親子に向けた交流保育は年９回、簡単なおやつ作りの育児講座は１回行っています。毎月の誕生会にも受け入れていて、園児と一緒に祝いをしています。運動会や夏まつりの行事にも地域の親子を受け入れ、園児と一緒に楽しんでいます。年度末に地域の子育て支援について、実施時期や内容などを振り返り、次年度の計画をたてています。 ・保土ケ谷区内では保育士が、合同育児講座（大規模１回、中規模２回、小規模４回）を行い、地域の親子に遊びや情報の提供、育児相談を行っています。この育児講座は保育士のほか、調理師、栄養士、看護師、保土ケ谷区こども家庭支援課職員、保健師、保育コンシェルジュ、園長らが連携し開催しています。参加保護者のアンケートから、地域性なども感じ取ることができ、アンケートの冊子は回覧をし、職員で共有しています。 ・保土ケ谷区家庭支援プロジェクトとして、「プレママ、プレパパ」も受け入れ、生まれる前からの支援を行っています。虐待防止の一面からも、出産後も引き続き、保育園に遊びにくるようにつなげています。
-----------------------------------	----------	---

<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の外側に設置した掲示板に、向台保育園の育児支援年間計画「保育園に遊びにきませんか」を貼り、配布もしています。室内の情報コーナーにも置いてあり、自由に持ち帰りができるようにしています。 育児相談の看板を園のフェンスに掲示し、平日いつでも対応できることを知らせています。相談件数や内容がわかるように、月ごとに集計をし、保土ケ谷区内の育児支援センター園にも報告をしています。 ・園庭開放や見学時に、保土ケ谷区内の合同育児講座のイベントのチラシや、保土ケ谷区子育て支援拠点「こっころ」などの情報も提供しています。合同育児講座では、保育園のパンフレットと一緒に、育児支援年間計画「保育園に遊びにきませんか」を配布しています。 ・交流のある小学校や幼稚園などに、園だよりを郵送し、その中に子育て支援の情報も入れています。地域の自治会長へは挨拶に伺い、送迎車の通行ルールや意見・要望など、日頃より情報交換をしています。 ・地域の関係機関との連携は、主に園長が行っています。関係機関と連携をしていることを、職員間で周知しています。
-----------------------------	----------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容によっては、園長が、保土ヶ谷区こども家庭支援課の保健師やケースワーカーなどと情報を共有し、対応を一緒に考え、その後の動きがあった時は、その都度報告しあっています。内容によっては、西部児童相談所や西部地域療育センターなどと連携し、案件の把握・見守り・連絡などを行っています。何か問題があれば、保土ヶ谷区市立園長会議で話し合ったりする連携体制があります。 ・小学校とは、情報共有のほか、子どもたちの交流も行っていきます。山本保育室とは、地域型保育事業所との連携事業により、今年度より連携園になっています。年2回の園児健康診断や、職員向けのAED園内研修に来園しています。
--	---

評価領域Ⅳ 開かれた運営

<p>Ⅳ-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保土ヶ谷区の独自事業としての保育園「応援隊」の方々には、藤棚修理などの園庭環境整備・人形作り・ままごと用のおもちゃ作りや、夏まつり・運動会・おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう会・お正月遊びの会などの行事への参加をさせていただいています。見てもらうだけでなく、子どもたちとふれあって遊ぶことも楽しんでいます。 ・応援隊の方が年間2回ほど来園し、園庭のビオトープの清掃や管理を長年行っています。子どもたちは、ビオトープのめだかを、友達や保育士と一緒に見たり、5歳児は当番がエサやりを行ったりしています。 応援隊の方の家の柿が実った時には、大枝ごと持ってきて、午睡中にフェンスに枝をくくりつけ、起きた子から柿もぎ体験をさせてもらい、子どもたちは大喜びで楽しんでいます。七夕の笹は、自分の庭にあるものを持ってきてもらっています。 ・地域への園庭開放や交流保育、絵本の貸し出しを行っています。子育て支援の交流保育では、その内容により園庭や保育室などの園施設を使い、地域の親子と園児が関わって楽しんでいます。 ・夏まつりの山車やおみこしの練り歩きの際には、地域の方が道に出て、応援や見守りをしてくれています。園舎回りの道路などの清潔を保つため、清掃を毎日行っています。また、雪が積もった時にも、雪かきを行い、近隣に配慮しています。 ・横浜市水道局の西谷浄水場のプールへ出かけて、水遊びを楽しんでいます。川島町公園こどもログハウスへ、散歩で行き遊んでいます。散歩の時には地域の方々と挨拶をし、親しみを感じられるようにしています。横浜FCのグラウンドへ、4・5歳児が行き、サッカー交流を行っています。 ・特別養護老人ホームのかわしまホームには、年に3回ほど5歳児が出かけ、手遊び、歌、体操、ふれあい遊びや、あやとりなどを披露し、交流しています。また、節分の時の鬼の衣装を毎年借りて、行事を盛り立てています。 川島地域ケアプラザの子育て親子広場「びーすらんど」に、幼児クラスが出向き、地域の親子と一緒にピアノに合わせてリズム遊びを楽しんでいます。小さい子への優しい気持ちで接しています。 ・近隣にある保育園、10園の5歳児交流「がやっこ」では、年間計画を立てて、ゲーム大会、ドッジボール大会、お正月遊びの会などで年3回ほど交流しています。同じ地域の子どもたちと関わることで、就学への期待が高まっています。ま
------------------------------------	---

	<p>た、他園との関わりを持ち、近隣の公園で一緒に遊んだり、お互いの園を行き来したりすることで、親しみを持って交流しています。</p>
--	---

<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の情報や子育て支援情報は、横浜市のホームページや園のパフレットで知らせています。 ・保土ケ谷区内の育児支援センター園（天王町保育園、神戸保育園）の育児支援担当保育士は、「にこやかほがらか通信」を隔月で発行しています。向台保育園の子育て支援情報を、この「にこやかほがらか通信」に掲載して、知らせています。保土ケ谷区内の保育園や保土ケ谷区こども家庭支援課、合同育児講座（大規模、中規模）開催時の情報コーナーに置き、自由に持ち帰れるようにしています。 ・情報提供会社の「働くママ応援し隊」のサイトでも、園の情報を見ることができます。 <p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学者の受け入れにあたっては、園の概要、保育理念、保育目標などパンフレットを見ながら丁寧に説明し、園舎の案内をしています。子育て支援の年間計画を渡し、園庭開放や交流保育などの、情報提供を行っています。 ・来園の希望については、いつでも応じています。見学者は積極的に受け入れ、可能な限り園長が説明し、丁寧な対応を心がけています。保育の様子がわかりやすい時間として、午前中の来園を進めています。何か聞き忘れたことがあった時には、電話で応じることも伝えています。電話での問い合わせには随時対応しています。
------------------------------------	---

<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入園児の説明会では、次世代育成のため、ボランティアを受け入れていることを説明しています。園だよりやクラスノートで、ボランティアの来園日などを、紹介しています。 ・園内で、ボランティア受け入れの担当者を決めています。担当者が、ボランティア受け入れの冊子「ようこそ向台保育園へ 保育園ってどんなところ？」を基に、オリエンテーションを行っています。保育園や子どものことや、守秘義務について、説明をしています。 ・ボランティアに来た日の最後には、担当者と話し合う時間を設け、感想や質問などを聞いています。感想や質問などは、職員ミーティングで他の職員にも伝えています。 <p style="text-align: center;">A</p> <p>後日、お礼の手紙や子どもたちへのメッセージなどの送付があった時には、子どもたちに紹介しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保土ケ谷区の社会福祉協議会からの中学・高校生のボランティアや、個人的な高校生のボランティアの受け入れも行っています。未成年の個人ボランティアの場合は、保護者の誓約書をもらい、受け入れています。 ・将来の社会福祉の人材育成の観点から、実習生を受け入れています。実習生受け入れマニュアルがあり、職員は周知しています。クラスに入った日には、クラスノートで保護者に紹介しています。
-----------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・園内で、実習生受け入れの担当者を決めています。担当者が、実習生受け入れのレジюмеを基にオリエンテーションを行っています。保育園のことや子どものこと、保護者対応のこと、守秘義務などについて、細かく丁寧に説明しています。担当者は学年と目的を確認し、実習したいクラスや部分実習を行いたいクラス希望をあらかじめ聞き、調整をしています。 初日には実習するクラスの予定を伝え、年齢や発達に合った実習のねらいが持てるように配慮しています。実習生は毎朝、各クラスで実習のねらいを担当に伝えていきます。午後には実習の振り返りを担任と行き、疑問点などはその日のうちに解消できるようにしています。 実習最終日には、園長、担任、担当者で反省会を行い、実習生の振り返りを聞き、長所や改善するところなどを伝えていきます。 ・昨年より、神奈川県の子育て支援員研修における実習生も受け入れています。(小規模保育や一時預かり事業における保育士資格を有しない保育従事者の養成)
--	---

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

<p>V-1 職員の人材育成</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の基準により、子どもの人数に応じた職員配置になっています。土曜日1時間開所による保育士のローテーション勤務を今年度より行っているため、嘱託保育士が加配されています。 ・障害児対応のアルバイト保育士も必要な補充を行っており、クラスに適正に配置しています。 ・横浜市の人事考課制度により、個々の職員が毎年目標共有シートを作成し、園長と面談をして目標を定め、達成するように遂行しています。12月の時点で振り返り、園長と面談をして状況を確認し、次年度につなげています。 ・横浜市の保育士人材育成ビジョンを基に研修体制が生まれ、個々のキャリア形成について、長期的な目標を持った仕事への取組みが行われています。 ・横浜市にはトレーナー制度があります。新採用職員には育成者(園長)とトレーナーの3人で、「職員育成計画書」を作成し、受け入れ期・中間期・まとめ期で、面談を持ち、横浜市職員として、市立保育園の保育士としての土台作りをしています。 ・園内研修は、個別のケース会議、食育研修、保育士の自己評価、保育所の自己評価を、少人数で行ったり、職員会議の中でも行ったりして、質の向上に努めています。 ・保育士、保育所の自己評価や第三者評価の園内研修では、一人ずつが自己評価したものを持ち寄り、保育への思いを伝えあったり、話し合いを重ねたり、園としての課題や改善部分などの共通認識を持つようにしています。 ・保土ヶ谷区で行う研修や育児講座に参加し、他園の保育に刺激を受けたり、意見を伝えあったりすることで、質の向上につながっています。 ・西部地域療育センターなどの障害児についての研修に参加し、今後の展望や対応の仕方を体感し、すぐに保育の中で実践を始めることができます。 ・研修参加後は報告書を提出し、職員会議の中で、様子を伝えて共有しています。保土ヶ谷区外で行う夜間研修にも積極的に参加し、保育の幅を広げる努力をして
--------------------	---

	<p>います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の保育士人材育成ビジョンの横浜市保育士人材育成計画を具体化した、「保育士キャリアラダー」を今年度より活用しています。横浜市の人事考課制度の目標共有シートの各面談時に、保育士自身が「キャリア自己分析表」で自己評価を行い、能力開発の目標立てや結果などを記入しています。保育士としての経験の幅を広げ、専門性の向上などに用いています。園長とも共有し、次年度にもつなげています。 ・全職員はお互いに、保育や業務の相談がしやすい雰囲気があり、日々のコミュニケーションが図られています。その結果、子どもへの共通認識を持つことができ、保育の質の向上にもつながっています。 ・嘱託職員向けやアルバイト職員向けの研修に参加したり、正規職員と一緒に人権研修にも参加したりしています。 ・アルバイト職員向けに、保育所スタート編と保育所基本編の小冊子2冊のハンドブックを配布し、それを基に園内研修を行っています。子どもの人権や、「よこはまの保育」（横浜市立保育園の保育の基本）について話し合いを持ち、質の向上を図っています。 ・嘱託職員・アルバイト職員も、園長が面談を行っています。園長は、日頃思っていることや個人的なことを聞き、時にはアドバイスを伝え、コミュニケーションを取っています。 ・全職員が各種マニュアルを、手に取って見るできるように、各クラスに置いています。 ・主任は非常勤職員にも業務内容を説明したり、保育へのアドバイスを行ったりして、安心して働けるように配慮しています。必要に応じて、他の職員も業務の説明やアドバイスをしています。非常勤職員も内容に応じて、保育会議や、乳児・幼児会議にも参加し、保育を共有し活かしています。
--	--

<p>V-2 職員の技術の向上</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日記入する保育日誌には、振り返りと自己評価の欄があります。子どもの行動の見とりや、自分の対応や言葉かけなどが適切であったか、翌日以降の保育にどう活かすかを記入しています。 ・月間指導計画を立てる時には、前月の指導計画に、振り返りや自己評価を記入しています。それを今月の計画に活かすようにし、保育の連続性を図っています。 ・横浜市こども青少年局や保土ヶ谷区などの主催の、保育研修や人権研修に参加し、保育の質の向上に努めたり、差別的な言動について考えるようにしたりしています。 ・西部地域療育センターなどの巡回相談などで、アドバイスを受け、保育技術の向上に努めています。 ・横浜市人事考課制度では、個々の職員が毎年「目標共有シート」を作成しています。年度初めに、「キャリア自己分析表」で自己評価を行い、自分の強みと弱み、習得できていない能力などを客観的に把握し、「目標共有シート」の目標立てに活用しています。その後、園長と面談で目標を共有し、達成するように、遂行しています。年度末の振り返り時には、「キャリア自己分析表」に結果などを記入
---------------------	---

		<p>し、「目標共有シート」と合わせて、園長と面談で振り返りを行い、次年度へとつなげています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市保育士人材育成ビジョンの中の、保育士の自己評価を行っています。各自が評価を行った後、職員会議などで項目別に職員間で意見交換を行っています。保育観や子どもへの対応で大事にしていることなどを話し合う中で、他の人の意見を聞き、気づきや参考にもなり、保育の質の向上になっています。また、各自が自己評価の目標を設定し、毎年振り返りを行いながら、次年度の目標設定をしています。3年サイクルの記録方法で、目標達成までの経過がわかるようになっています。 ・保育所の自己評価の中で、毎年保護者アンケートもを行っています。保護者の要望や意見を受け止め、改善に向けて話し合い、すぐに解決ができるものは対応しています。長期に渡るものは、次年度への課題にしています。
--	--	---

<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市保育士育成ビジョンに基づき、研修・人事考課・人事異動の3点から、人材育成を行っています。横浜市保育士人材育成ビジョンの冊子は、各人に配布されていて、いつでも確認ができるようにしています。 ・職員行動基準に則り、一人一人の職員が意欲、能力を最大限に発揮し、自ら考え行動する職員になるように、日頃より意見交換をしています。 ・主任以外に、クラスリーダー、乳児・幼児リーダーがそれぞれいて、日々の保育の中で判断ができるようにしています。 ・年間行事担当や、園業務の中での役割を、一人一人が責任をもって遂行することで、保育園の毎日が、円滑に運営できるようにしています。 ・年度当初、職員一人一人と園長が面談を行い、「目標共有シート」の目標について話し合い、共有しています。年度末に再度面談をして達成状況などを確認し、次年度への課題につなげています。また、経験や能力に応じた役割は、面談の中で確認をし、共有しています。 ・面談時には、園内で気になることや、改善すべきところなど、今後の保育園について話す機会も設けています。 ・嘱託職員・アルバイト職員も、園長が面談を行っています。園長は、日頃思っていることや個人的なことを聞き、時にはアドバイスを伝え、コミュニケーションを取っています。 ・職員は、日々気づいたことを、職員ミーティングの中で報告し、すぐに対応できることは改善しています。 ・保土ケ谷区役所が責任職（園長）の「マネジメントスタイルチェック」のアンケートを職員に行っており、要望などを受け、改善に努めています。
--------------------------	----------	--

評価領域VI 経営管理

<p>VI-1 経営における社会的責任</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市職員としての研修を受けています。横浜市や保土ヶ谷区が実施している人権研修に参加し、報告書を回覧し、園全体で絶えず意識を持つようにしています。 ・保育所保育指針を基にした、保育目標、保育理念、保育姿勢を、各クラスや玄関に掲示し、いつも思い、確認するようにしています。 ・コンプライアンス研修を、年1回園内で行い、基本を忘れないようにしています。 ・個人情報漏えいなど不祥事などの情報は、新聞の切り抜きや、保土ヶ谷区からの情報などを用いて啓発に努めています。 ・給食業務の異物混入や、除去食対応の他園での事故の情報は、職員ミーティングで報告を行い、さらに職員間で回覧をし、事故防止に努めています。 ・異物混入などが起こった場合のマニュアルがあり、園外に報告をする体制が、日頃よりあります。 ・保育日誌や経過記録、保育所児童要録など、保護者の請求があれば、開示する仕組みがあります。 <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミは事業系ゴミとして、横浜市のルート回収で処理しています。 燃やすゴミ、廃プラスチック、金属くず、古紙、蛍光管など、分別しています。毎年前年度より、減量の数値を目標にしています。ゴミゼロ推進委員の2名は、毎月のゴミの量の報告や、職員向けにゴミの分別強化や減量のための啓発を行っています。 ・幼児クラスには、燃やすゴミ・プラゴミ・紙ゴミの3種類のゴミ箱を設置し、子どもたちにも分別するように伝えています。 ・年に1回、横浜市資源循環局が来園し、子ども向けの出前講座を行っています。園全体でのゴミの減量に努力しています。 ・横浜市のエネルギーカルテシステムが導入され、使用エネルギー（電気・ガス・水道）の目標が設定され、毎月の実績報告を行っています。 ・使っていない場所の電気をこまめに消したり、コピーの裏紙使用を行ったりして、省エネルギーに努めています。
-------------------------	---

<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育目標など、新しい職員には内容を説明し、紙で必ず配布をしています。玄関や各保育室にも保育目標と理念を掲げ、いつも確認できるようにしています。また、保護者や来客などにも、わかるようにしています。保育目標は、毎月発行の園だより、クラス懇談会の資料などにも記載し、保護者に伝えています。 ・保育目標は年度末に見直し、年度初めに職員会議の中で、その言葉の意味を確認しています。年間・月間指導計画の中に取り入れ、保育に活かしています。 <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日11時間開所による保育士のローテーション勤務や、登降園システム導入による業務内容の変更を、今年度行っています。園だよりやクラス懇談会で、制度の説明や進捗状況を伝え、保護者が関心を持つようにしています。年度末に、登降園システムについての説明会を数回行っています。保護者が参加しやすいように、いろいろな開催時間を設け、全保護者に丁寧に伝えるようにしています。 ・登降園システム導入時には、園長・主任だけでなく、職員会議の中
--------------------------------	--

		<p>で話し合っています。兄弟のいる保護者の動線、カードの保管方法、カードリーダーの位置など、細かい部分も職員みんなで決めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的に民間移管になることは、新入園の説明会や、見学者には、必ず説明しています。保護者には毎年の移管情報を掲示板で伝えるとともに、今後の移管予定も廊下に掲示し、伝えています。 ・保土ヶ谷区北西部地区の保育園（11園）の主任研修では、主任の職務や保育の質の向上について、情報や意見交換を行い、園内での主任業務に活かしています。 ・主任は日頃より、職員一人一人とコミュニケーションを図り、保育へのアドバイスを行い、安心して働けるように配慮しています。必要があれば、園長に報告しています。また、園長不在時には代行を務めています。園全体を常に見て、業務の分担や比重、進捗状況なども把握し、職員間の連携に努めています。園内研修の中心となり、計画や実施の声掛け、会の進行やアドバイスを行っています。 ・土曜日11時間開所によるローテーション勤務がスムーズに行えるよう、全員の意見を取り入れて進めています。また、休暇や研修の調整を行っています。
--	--	--

<p>VI-3 効率的な運営</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保土ヶ谷区政運営方針より、毎年、向台保育園の目標を立てて、職員へ周知しています。個々の職員が毎年作成する「目標共有シート」にも、向台保育園の目標が連動しています。 ・保土ヶ谷区政運営方針は、保土ヶ谷区長が来園し、職員に直接話をし、周知しています。 ・園長は、保土ヶ谷区や横浜市子ども青少年局や代表園長会からの情報や、園長が出席している会議（全体責任職会議、4区エリア別会議、行政区会議、育児支援会議、保育資源ネットワーク会議など）の内容を職員会議で報告しています。横浜市全体の動き、保育に関する制度の改正、保育園に関する事故や事件、人材育成の制度や研修についてなど、横浜市保土ヶ谷区職員として、知っておくべきことを共有するようにしています
---------------------------	-----------------	--

保育観察／子ども本人聞き取りシート A

保育所名	向台保育園	調査日	平成29年12月19日	調査機関	(公社)けいしん神奈川
------	-------	-----	-------------	------	-------------

クラス (年齢)	時間帯	保育の様子・子どもの様子
0歳児 組	日時	(この欄は斜線で消されています)
1歳児 ひよこ 組	19日 10時45分 11時30分	リズム遊びを見学します。初めに2歳児がキーボードの音楽に合わせて遊ぶ様子を見て、真似しています。飛んだり跳ねたり、手を上げたり、四つん這いになってハイハイしたり、ごろごろ転がったり、楽しそうに声を上げています。アヒルの格好をしてしゃがんで歩く動作は難しく、保育士と一緒にやさしく付き添っています。腹ばいになって両足をつかむ動作はなかなかできないようです。二人組でギタタンバッコンは楽しそうです。保育士と組んでいる子もいます。メダカのようにすいすい泳ぐことが難しく、楽しそうに走り回っています。最後にみんなで手をつないで、両手で時間を表しています。月齢による差がありますが、元気に楽しそうに遊んでいます。食事はスプーンを使って上手に食べています。
2歳児 らっこ 組	19日 10時45分 11時30分	リズム遊びを楽しんでいます。キーボードの初めの音を聞いて何の曲かを答えて、動作を始めます。1歳児の見本となっています。ごろごろ転がったり、あひるの格好をしてしゃがんで歩く際には、保育士は褒めたり、励ましたり子どもたちに寄り添っています。二人組でギタタンバッコンする際に自分の思った子と一緒になれなかった子どもに対して、保育士は納得するまで優しく時間をかけて話しています。2歳児は1歳児の模範となるように頑張っている様子が見えます。昼食を見学します。メニューはラーメンとごはん、切り干し大根です。デザートにみかんが付いています。上手にスプーンを使って食べています。

クラス (年齢)	時間帯	保育の様子・子どもの様子	子ども本人からの聞き取り
3歳児 ぺんぎん 組	19日 11時 11時45分	3・4・5歳児合同で近くの陣ヶ下溪谷公園に散歩に行きます。3歳児は5歳児と手をつないで歩いています。安心している様子が伝わってきます。公園では走り回ったり、虫やドングリを探しています。落ち葉の上をごろごろしている子もいます。遊んだ後は全員であったかい麦茶を飲んでいました。食事時間を見学します。ラーメンのみ保育士が配膳し、あとは自分たちで運んでいます。スプーンを上手に使っています。ラーメンの卵が苦手の子もいます。おやつの中では蒸しパンをせいろからトングを使って、保育士一緒にとっています。園庭での遊びでは三輪車に乗って遊んでいます。	調査員に、園庭での遊びや散歩が大好き、好きな食べ物はカレーと教えてくれました。
4歳児 いるか 組	19日 11時 11時45分	散歩を見学しました。公園では保育士と一緒に走り回ったり、落ち葉をかけあったりして遊んでいます。3歳児や5歳児と一緒に遊ぶ子もいます。異年齢の交流が自然と遊びの中でできています。食事時間を見学します。箸を上手に使っています。ラーメンやご飯、切り干し大根をお代わりする子もいます。食べた食器の後片付けをしています。おやつの中では、蒸しパンをせいろからトングを使ってとっています。園庭での遊びでは鉄棒や、ブランコ、砂遊びをしています。	調査員にカレーが大好き、「迷路」の本が大好きと教えてくれました。好きな遊びを聞くと、手作りのこまを作ったので、回してあげると言ってくれました。
5歳児 くじら 組	19日 11時 11時45分	散歩時には3歳児の手を引いて歩いています。しっかり落ち着いた様子です。公園では落ち葉を集めています。何か作品を作ろうとしています。その様子を見て3歳児や4歳児も真似をして、落ち葉集めをしています。保育士は優しく見守っています。食事時間を見学します。当番が準備して、今日のメニューを紹介して全員で頂きます。ラーメンとごはん、切り干し大根を美味しく食べています。箸を全員上手に使っています。食後は後片付けをし、歯を磨いて着替えて午睡です。おやつの中には蒸しパンを自分でせいろからトングを使って上手にとっています。当番は牛乳パックのふたを上手に開けることができます。園庭では「こおりおに」という鬼ごっこを保育士と一緒にしています。	好きな食べ物はカレーとラーメン、ドーナツと答えています。好きな遊びは「こおりおに」と答えています。

備考	誕生会は全園児参加で、行っています。 年長児が一人一人のために作った冠やお花の首飾りをプレゼントし、ケーキのろうそく消しや、パネルシアターなどを楽しんでいます。保護者の参加もあり、前月参加できなかった誕生児も一緒にお祝いしています。
----	---

■結果の特徴

向台保育園

アンケート回収率 77.4%

送付数: 53

回答数: 41

保育園に対する満足度は「満足」、「どちらかといえば満足」を加えると97.6%となっており、満足度は高いです。

園の保育目標・保育方針については、82.9%が「よく知っている」、「まあ知っている」と回答しています。知っている保護者の98.0%がその目標に賛同しています。

満足度の高い項目

日常の保育内容について「遊び」では、「子どもが戸外遊びを十分しているか」、「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動」、「生活」では「基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組み」、「お子さんへの体調への気配り」や、職員への対応について「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか」、「あなたのお子さんが大切にされているか」、など満足度が高いです。

満足度が低い項目

「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換」、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされている」、「施設設備」、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」、「開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応」、「意見や要望への対応」については満足度が低いです。

■保育園の基本理念や基本方針について

問1 あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか。	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
(人)	16	18	5	1	0	1	41
(%)	39.0%	43.9%	12.2%	2.4%	0.0%	2.4%	100.0%

(付問) あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	共感できる	まあ共感できる	どちらともいえない	あまり共感できない	まったく共感できない	無回答	計
	31	4	0	0	0	6	41
	75.6%	9.8%	0.0%	0.0%	0.0%	14.6%	100.0%

■保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れ方については	32	7	0	0	2	0	41
	78.0%	17.1%	0.0%	0.0%	4.9%	0.0%	100.0%
その他 ・見学をした事がない・見学していない							
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	27	10	2	0	2	0	41
	65.9%	24.4%	4.9%	0.0%	4.9%	0.0%	100.0%
その他 ・確認していない・覚えてません(6年も前のことなので)							
園の目標や方針についての説明については	27	13	0	0	1	0	41
	65.9%	31.7%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	100.0%
その他 ・入園前は園庭開放時に遊びに行っただけ。特に説明は聞いていないが問題なし							
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	29	8	2	0	2	0	41
	70.7%	19.5%	4.9%	0.0%	4.9%	0.0%	100.0%
その他 ・面接は無かったです・入園前は園庭開放時に遊びに行っただけ。特に説明は聞いていないが問題なし							
保育園での1日の過ごし方についての説明には	28	10	3	0	0	0	41
	68.3%	24.4%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
その他							
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかを含めて)	29	11	0	0	1	0	41
	70.7%	26.8%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	100.0%
その他 ・入園前は園庭開放時に遊びに行っただけ。特に説明は聞いていないが問題なし							

問3 保育や行事の年間計画について

	満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事の説明については	25	12	3	1	0	0	41
	61.0%	29.3%	7.3%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他						
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	18	16	2	3	2	0	41
	43.9%	39.0%	4.9%	7.3%	4.9%	0.0%	100.0%
	その他 ・まだ入園したばかりなので分かりません・要望を申し出した事がない						

問4 日常の保育内容について

	満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答	計
「遊び」について							
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	29	11	1	0	0	0	41
	70.7%	26.8%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他						
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	32	8	0	1	0	0	41
	78.0%	19.5%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他						
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	27	12	2	0	0	0	41
	65.9%	29.3%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他						
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	35	6	0	0	0	0	41
	85.4%	14.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他						
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	29	11	0	0	1	0	41
	70.7%	26.8%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	100.0%
	その他 ・保育参加だけではよくわかりません						
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	26	12	0	2	1	0	41
	63.4%	29.3%	0.0%	4.9%	2.4%	0.0%	100.0%
	その他 ・園でどのようなことをやっているのかわからないためどちらともいえないです						
「生活」について							
給食の献立内容については	26	11	2	1	1	0	41
	63.4%	26.8%	4.9%	2.4%	2.4%	0.0%	100.0%
	その他 ・量が少なすぎる						
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	27	11	3	0	0	0	41
	65.9%	26.8%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他						

基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	32	5	1	1	2	0	41
	78.0%	12.2%	2.4%	2.4%	4.9%	0.0%	100.0%
その他 ・わからない・自分でできることが多かったのだ							
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	26	10	1	1	3	0	41
	63.4%	24.4%	2.4%	2.4%	7.3%	0.0%	100.0%
その他 ・わからない・昼寝が長すぎる・お昼寝をしている為か夜なかなか寝ません。4才児なので、2時間は長いと思う							
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	25	6	4	0	6	0	41
	61.0%	14.6%	9.8%	0.0%	14.6%	0.0%	100.0%
その他 ・わからない・おむつが外れてから入園したため、わかりません・まだおむつはずしについて話をしていない・まだ始めてない・中々、おむつ外しが進まなかったため、家で積極的にトイレトレーニングをしました・始めていない							
お子さんの体調への気配りについては	35	4	2	0	0	0	41
	85.4%	9.8%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
その他							
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	32	4	4	1	0	0	41
	78.0%	9.8%	9.8%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%
その他							

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	18	14	6	1	2	0	41
	43.9%	34.1%	14.6%	2.4%	4.9%	0.0%	100.0%
その他 ・げた箱の”スノコ”の老朽化が気になる。まだ園には伝えていないが、自主的に改善してほしい ・車での送迎はしづらい。ベビーカーで泥の園庭を横切りたくない							
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	27	7	7	0	0	0	41
	65.9%	17.1%	17.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
その他							
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	24	10	5	1	1	0	41
	58.5%	24.4%	12.2%	2.4%	2.4%	0.0%	100.0%
その他 ・朝いつもあけっぱなしになっている							
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	27	8	5	1	0	0	41
	65.9%	19.5%	12.2%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%
その他							

問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	24	13	4	0	0	0	41
	58.5%	31.7%	9.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
その他							
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	31	8	2	0	0	0	41
	75.6%	19.5%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
その他							

園の行事の開催日や時間帯への配慮については	26	8	5	0	1	1	41
	63.4%	19.5%	12.2%	0.0%	2.4%	2.4%	100.0%
	その他 ・雨の日に行ったが午後晴れたのでずらしてほしかった						
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	15	16	8	1	1	0	41
	36.6%	39.0%	19.5%	2.4%	2.4%	0.0%	100.0%
	その他 ・不明な点があればこちらから聞きに行く						
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	22	16	3	0	0	0	41
	53.7%	39.0%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他						
保護者からの相談事への対応には	24	12	2	1	2	0	41
	58.5%	29.3%	4.9%	2.4%	4.9%	0.0%	100.0%
	その他 ・相談事なし・気軽に相談できる環境ではない						
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	21	10	4	1	4	1	41
	51.2%	24.4%	9.8%	2.4%	9.8%	2.4%	100.0%
	その他 ・機会がないのでわかりません・迎えが遅くなった事がないのだ分からない・まだ対応していない・今年度から厳しくなった柔軟な対応はなくなった						

問7 職員の対応についてうかがいます。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	27	10	2	0	2	0	41
	65.9%	24.4%	4.9%	0.0%	4.9%	0.0%	100.0%
	その他 ・正直よくわからない時々不安になる・わからない						
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	32	5	2	0	2	0	41
	78.0%	12.2%	4.9%	0.0%	4.9%	0.0%	100.0%
	その他 ・友達次第の部分あり・楽しめられている時とそうでない時がありどちらともいえないです						
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	28	7	0	0	5	1	41
	68.3%	17.1%	0.0%	0.0%	12.2%	2.4%	100.0%
	その他 ・当事者でないので分かりません・アレルギーや障害がないので分からない・不明(アレルギーとかかわりがないため)・分からない・自分の子どもにアレルギーや障害がないためどちらともいえないです						
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	28	7	4	0	2	0	41
	68.3%	17.1%	9.8%	0.0%	4.9%	0.0%	100.0%
	その他 ・職員による・人によって違う気がする						
意見や要望への対応については	23	12	5	0	1	0	41
	56.1%	29.3%	12.2%	0.0%	2.4%	0.0%	100.0%
	その他 ・何ともいえない						

問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	—	計
総合満足度は	25	15	1	0	0		41
	61.0%	36.6%	2.4%	0.0%	0.0%		100.0%

集計結果 (グラフ表示)

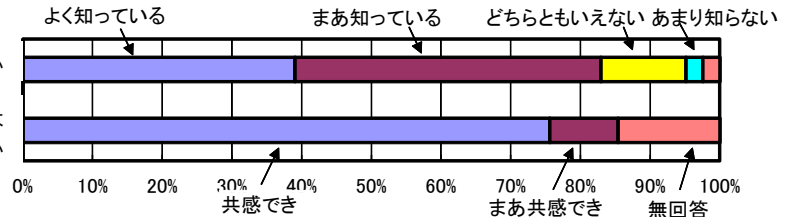
調査対象保育園： 向台保育園

■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1

あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか



■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況について

見学の受け入れ方について

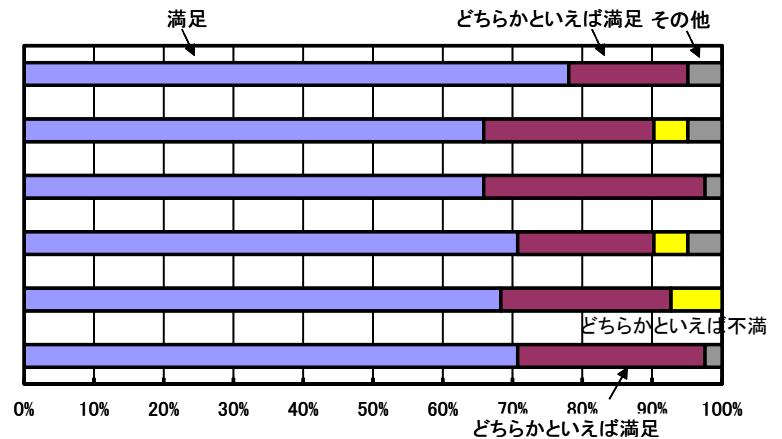
入園前の見学や説明など、園からの情報提供について

園の目標や方針についての説明には

入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを

保育園での1日の過ごし方についての説明には

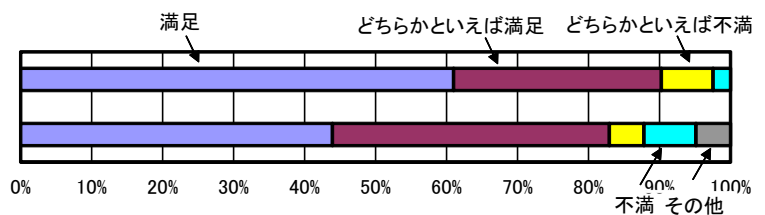
費用やさまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかを含めて)



問3 保育や行事の年間計画について

年間の保育や行事についての説明には

年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては



問4 日常の保育内容について

「遊び」について

クラスの活動や遊びについては

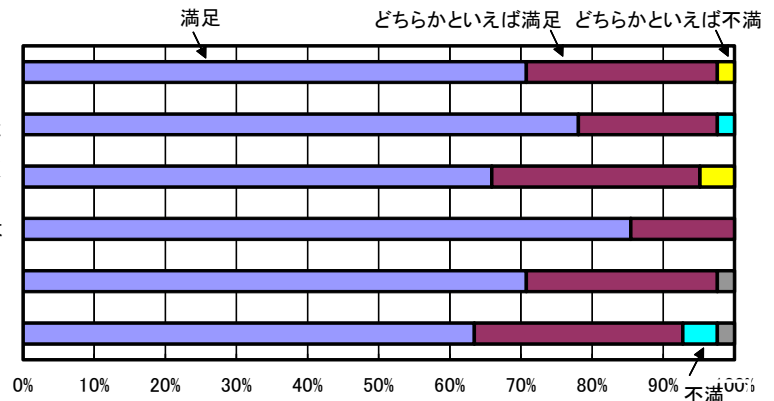
子どもが戸外遊びを十分にしているかについては

園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)

自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については

遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては

遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては



「生活」について

給食の献立内容については

お子さんが給食を楽しんでいるかについては

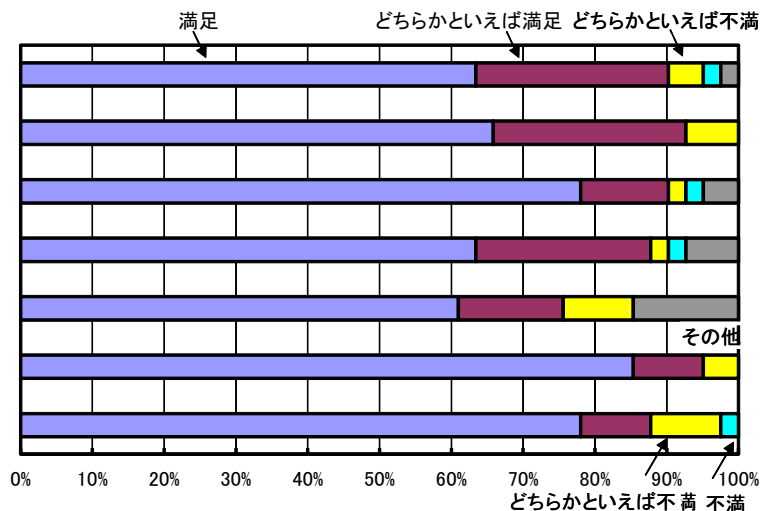
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては

昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては

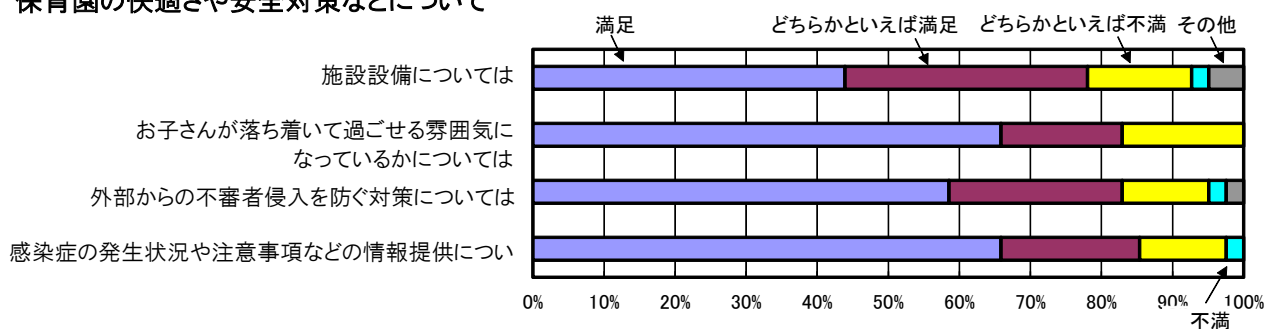
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては

お子さんの体調への気配りについては

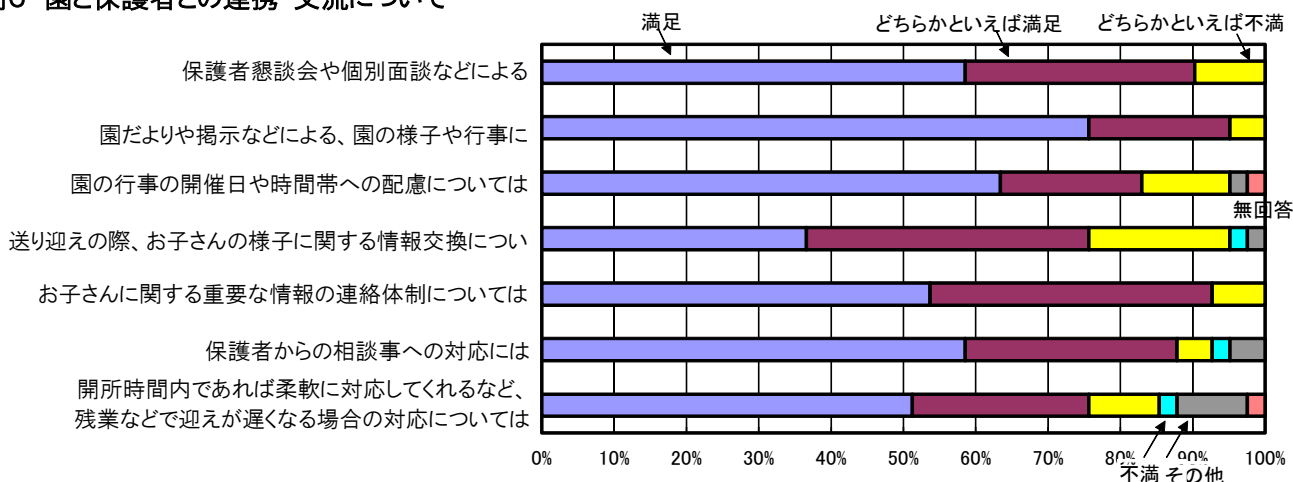
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には



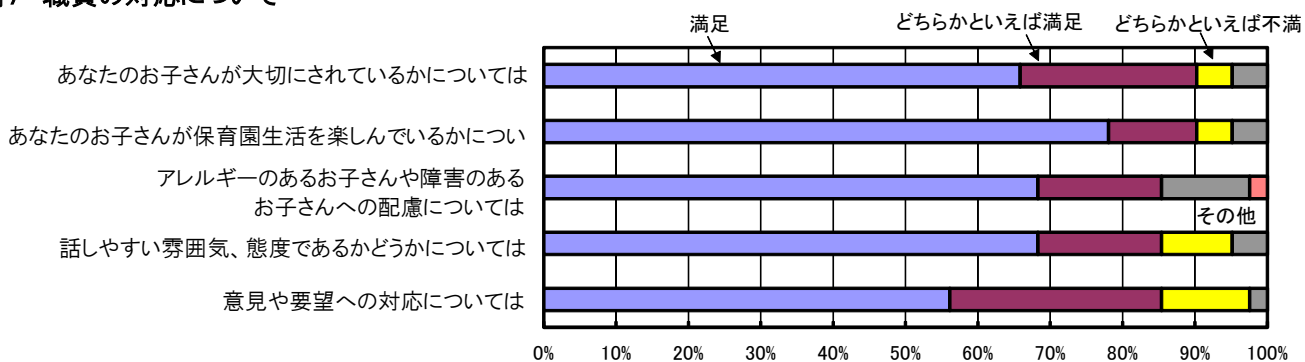
問5 保育園の快適さや安全対策などについて



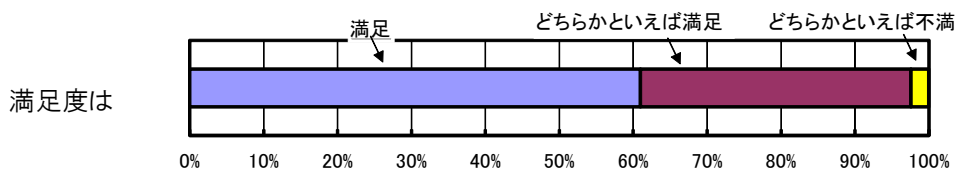
問6 園と保護者との連携・交流について



問7 職員の対応について



問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足しています



向台保育園の評価結果の“まとめ”

評価結果より（優れている点の特徴）

- すべての子どもや保護者と一緒にふれあう。⇒ 小型園の共に育ちあう保育
- 恵まれた自然環境と園外活動、飼育・栽培保育。⇒ 戸外遊びと食育の充実
- 幼児の合同異年齢保育と乳児の異年齢交流。⇒ 子ども同士の成長と主体性
- 保育園応援隊、地域ケアプラザ・特養訪問。⇒ 地域との交流、世代間交流

アンケート結果より

保護者の総合的な満足度が高い（97.6%）

- 自然に触れたり、地域に関わる園外活動についての満足度が高い。
- 子どもが保育園生活を楽しんでいるかについて満足度が高い。
- 子どもが戸外遊びを十分しているかについて満足度が高い。
- ★送り迎えの際、子供の様子に関する情報交換について満足度がやや低い。

職員間の連携が密接である

- ・乳児・幼児のクラスを超えた日々の連携
- ・毎日の全職員ミーティングと情報の共有
- ・リズム・散歩等のクラス間連携と協力
- ・保育士・調理員・嘱託員、**相互の連携**

園活動の連携がとれている

- ・園行事（誕生会・夏まつり等）分担と協働（全園児が集まって種々の行事を開催）
- ・園のシンボルマークによる行事の連帯感
- ・栽培活動と食育活動の一体的な取り組み
- ・地域子育て支援（誕生会の交流）の実施

保護者との連携がとれている

- ・理念・目標の「リンゴの木」による共通理解
- ・連携の仕組み（書式）による情報交換
- ・随時受付の一日保育士による保育参加
- ・独自の個人情報保護の工夫と相互確認

★保護者の声

- ・送迎時の情報交換への要望がある
- ・年間行事や施設設備への要望がある
- ★改善・工夫を期待
- ・活動や理念・意図などの積極的な発信
- ・民間園移行の関係者への説明・引継ぎ

「事業者コメント」

向台保育園の歴史は長く、創立 52 年を迎えました。第三者評価を受審するのは 2 回目ですが前回とは体制が変わり、今年度より職員のローテーション勤務が始まり、職員数も増えています。

受審の前年度より、項目ごとに担当を決め、全員で話し合いを進めました。ローテーション勤務が始まってからは、昼の短い時間の積み重ねになりましたが、保育園の今までのあゆみや、一人一人の保育観などを話し合う中で、お互いのことを認め合い、さらに向台保育園の良さをみんなで共有することができました。みんなで臨んだヒアリングで向台の良さを語れたのも、この話し合いの中から生まれたものです。

保護者の方々には、利用者アンケートでの貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。評価機関の方からも参考となるご意見をいただきました。皆様からいただいたご意見は、今後の保育や園運営に活かし、保育の質の向上に努めていきます。子どもたちにも保護者の方々にも頼りになる保育園に、そして地域の方々にも愛される保育園になるように、全職員で力を合わせていきます。

向台保育園